

# 栃木県大田原市 廃校利活用事例（旧蜂巢小学校）



## 大田原市のご紹介



- ▶ 栃木県北東部に位置。
- ▶ 都心から新幹線・二次交通利用で約90分。
- ▶ 平成17年度に大田原市・黒羽町・湯津上村の3市町村合併。

人口：73,528人[R1・7月]  
(栃木県毎月人口調査)

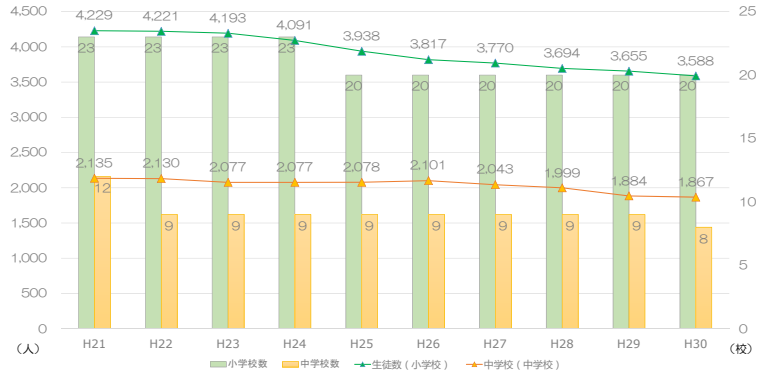
面積：354.36㎢

予算額：317.6億円  
(令和元年度一般会計)

## 大田原市のご紹介[名産品・観光資源]



## 大田原市立小中学校数・児童生徒数の推移



## 廃校利活用にあたって取り組んだこと（取り組んでいること）



### ①利活用方針の庁内検討・地区住民のニーズの把握

- ▶ 平成22年度から平成23年度にかけて、統合により小中学校4校が廃校施設となることを受け、庁内検討委員会・ワーキンググループ・各地区座談会を開催し、方針を検討。
- ▶ うち3校が民間事業者による利活用を検討することとなり、現在の廃校利活用方針の基礎となっている。

### ②公募型プロポーザル方式による事業者募集

- ▶ 文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」や市HP・SNS等において、利活用を検討している施設について広く事業者の募集を行う。
- ▶ 競争入札ではなく、民間事業者が持つノウハウ・アイデアが反映された提案を基に審査することで、より地域課題に対して効果的な利活用を検討することができる。

### ③施設見学（随時）・サウンディング調査の実施

- ▶ 利活用を検討する事業者に対し、随時施設の見学を受け入れている。
- ▶ 平成30年度には、利活用の前段階で市場性や利活用の可能性を民間事業者等から聞き取るサウンディング調査を実施している。

## 企業決定の決め手



利活用施設：旧蜂巢小学校  
(大田原市蜂巢295)

建築年月日：昭和7年11月

- ▶ 木造1階建
- ▶ 管理教室棟・教室棟、屋内運動場、特別教室棟
- ▶ 平成24年度をもって閉校

平成25年度公募型プロポーザルによる事業者募集  
(対象施設：5施設)



社会福祉法人エルム福祉会による提案を受け、  
審査の結果利活用候補者とし、契約を締結

- ▶ 近隣で既に就労移行支援事業・就労継続支援事業を実施しており、社会福祉事業によって積極的な地域貢献を行う事業者であった。
- ▶ 募集当時、同法人では既存の事業所における新規受入が難しい状況であり、新たに障害を持つ人々の雇用の場を確保する目的があった。
- ▶ 「hikari no café 本店」を運営しており、事業実施に関するノウハウを所有していた。

①利活用方針の検討（庁内検討委員会・座談会）  
⇒H22～23に跨り検討。

②地域住民との関係性  
⇒エルム福祉会の企業努力による地域連携。

- 地域の賑わい・交流人口の創出  
⇒年間30,000人を超える利用者。県外からの来訪も多数
- 地域の拠点施設としての機能を残すことができる  
⇒地域の方々によるギャラリー・イベントスペースとして活用
- 市の公共施設維持管理費用の削減（FMの視点）  
⇒今後益々増加していく公共施設の維持更新問題への貢献

- ①市の方針・公共設備設置状況や地域の利活用希望との調整  
⇒全国的にも、現在「公共施設」は統合・縮小・削減の方向性。
- ②事業の実施に伴う施設改修  
⇒建築基準法や消防法の順守。「学校」の用途のまま実施できる事業は多くない。また、多目的施設として活用する際（複合施設）はより複雑になるケースもある。
- ③官民のリスク分担（※公民連携で実施する場合）  
⇒改修・維持費等の費用面、管理面の課題。
- ④実際の利活用ニーズの発掘・事業者の選定  
⇒市の方針や課題解決に直結したニーズ・事業者。

ご清聴ありがとうございました。

